

| | | | | | | | | | |
|---|--|---------|------------------------------|------|-----|------|-----|-------|-----------------|
| 科目名 (英文表記) | 特殊講義IV (NZアントレプレナーシップ・スタディツアー) (Special Topics IV) | | | | | | | | |
| 科目区分 | 発展科目 | 単位数 | 2 単位 | | | | | | |
| 担当教員名 | 篠本智之 猪口純路 | ナンバリング | MBA_E_GM 5341 | | | | | | |
| 研究室番号 | (篠本) 457 (猪口) 331 | 研究室電話番号 | (篠本) 27-5347 (猪口) 27-5497 | | | | | | |
| Eメール・アドレス | 篠本 : hatamoto@res.otaru-uc.ac.jp 猪口 : inojun-u@res.otaru-uc.ac.jp | | | | | | | | |
| 授業の内容及び方法： 次頁以降に記載 | | | | | | | | | |
| 授業の目的： 本講義では、日本国内に留まるだけでは得にくい新たな視点や感覚を獲得した上で、国内の地域経済活性化のためのアントレプレナーシップを涵養する。北海道はもとより、日本の大部分は地方部であり、東京一極集中型の経済構造を前提としたビジネス・モデルからは、地域経済活性化の示唆を得にくい。しかし、NZは、国土面積は日本の2/3程度、人口約500万人という人口密度と規模ながら、経済と暮らしやすさを両立した国として世界から高い評価を獲得しており（ビジネスのしやすい国、環境先進国、多文化主義、平等主義、高い公的医療制度・公的教育サービス、スポーツ文化、自然との調和等）、日本の地方部において参考とすべき点が多い。そこで、NZの主要産業である観光業（特に多文化と自然の観光資源化と管理）および農畜産業（特にワイン産業の育成とブランディング）を中心に、現地訪問によって実学的な理解を深め、約1週間の現地滞在経験を通じてその社会の在り方について体感し、さらにUniversity of Otagoでの講義から理論的な理解を得ることで、日本国内にいたるだけでは獲得困難な視点や感覚を通じたアントレプレナーシップの涵養を図る。 | | | | | | | | | |
| 到達目標： | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ① グローカルな視点から地域経済活性化に資するアントレプレナーシップを醸成する ② グローカルな視点から地域経済活性化に資するビジネス・アイディアの着想を得る ③ グローカルな視点から自身が居住する地域社会の特性を理解する | | | | | | | | | |
| 使用教材： 適宜、必要な教材を指示あるいは配布。 | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法： 成績評価は、以下の評価項目に基づいて行う。 | | | | | | | | | |
| <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">事前課題</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">事後課題</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">授業参加度</td> <td style="text-align: right;">50% (含、現地授業内評価)</td> </tr> </table> <p>上記の合計得点で 90%以上を「秀」、80%以上、90%未満を「優」、70%以上 80%未満を「良」、60%以上 70%未満を「可」、60%未満を「不可」とする。 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。</p> | | | | 事前課題 | 20% | 事後課題 | 30% | 授業参加度 | 50% (含、現地授業内評価) |
| 事前課題 | 20% | | | | | | | | |
| 事後課題 | 30% | | | | | | | | |
| 授業参加度 | 50% (含、現地授業内評価) | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項： 各自の携帯端末等の翻訳アプリなどを利用することで講義内容を理解できるよう授業進行や構成は配慮し、教員も極力サポートをするが、英語になるべく日頃から触れておくことが望ましい。講義の内容、順番等は、多少変更の可能性がある。 | | | | | | | | | |
| <p>本科目は文部科学省からの委託事業「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」における神戸大学・和歌山大学との共同プログラム「地域/社会課題を解決する対話型ビジネス価値共創人材養成のための価値創発から社会実装までの一貫教育プログラム」の適用科目の一つであり、3カテゴリーのうち社会実装科目群に属します。なお、本プログラムを修了するためには3カテゴリーから1科目以上を履修し、合計10単位以上を修得する必要があります。</p> | | | | | | | | | |